

令和元年度 東京オリンピック・パラリンピック共生社会ホストタウン事業

【制作】福島民報社 【監修】猪苗代町

猪苗代町とガーナ共和国 友好の絆



駐日ガーナ大使(前列右から4人目)との交流を深めた料理講習会

おもてなしの心 ガーナへ届け

東京五輪・パラリンピックホストタウン

東京五輪・パラリンピックに向け、ガーナのホストタウン・共生社会ホストタウンになっている猪苗代町は昨年八月からガーナとの友好を形にしている。町内の児童・生徒らによる応援メッセージやガーナ国歌斉唱などを収録したビデオレター

を作成してガーナに送った。花アートを制作したり、花アートを制作したりするなど、大会の開催を信じて「おもてなし」の心を込めた活動を展開している。昨年十二月には駐日ガーナ大使と大使館の料理人が猪苗代町を訪れ、ガーナの伝統食を町民と一緒に味わい、一層の交流を深めた。

メッセージ動画でエール

思いを込めたビデオレター完成



吾妻中



猪苗代中



いなラボ



東中



こどものひろばプリモ



緑小

動画の撮影は昨年九月中旬から十二月中旬まで、町内の小中学校や障がい児・者施設など計十六団体が参加して行われ、約一時間のビデオレターが完成した。

町内の小中学校や障がい児・者施設で伝統の太鼓演奏を披露している様子などを収録した。ガーナ国旗の旗を振りながら「We Love Ghana」などの文字を記したスケッチブックを掲げ、ガーナの選手に思いが届くよう大きな声でエールを送る場面も収められた。

国歌斉唱で選手激励

東京五輪・パラリンピックの延期や新型コロナウイルスの感染拡大で不安を募らせているガーナの選手を元気づけようとして、児童らがガーナの国歌を元気に歌う姿もビデオレターに収められた。



猪苗代小



翁島小



長瀬小



吾妻小



猪苗代支援学校

はもつとひとつになれる Light Up Host Town Project」にも掲載される予定。

花アートで応援

「福島の花」で磐梯山など表現

花アート事業は猪苗代町出身の写真家野口勝宏さんが撮影した「福島の花」の一輪一輪をシールにし、町内の小中高生らが縦二列、横四列の大型台紙に貼って完成させた。猪苗代湖などの代表的な風景をデザインした。似た色の花を集めて貼ることで遠くからは風景に見える。近づく、色鮮やかな花々の写真を楽しめる。

利用者が約千二百人が協力し、昨年八月から約二カ月間かけて仕上げた。作品は昨年十月に町内で開かれた「ウォールアートフェスティバル」で展示する予定。制作風景も応援メッセージ動画と併せてガーナに送られる。



子どもたちの思いのこもった作品をたたえる野口さん



千里小



猪苗代高



猪苗代支援学校



福島県ばんだい荘



地域活動支援センター

ガーナ伝統料理で交流

給食のメニューに検討へ



ガーナ料理の作り方に見入る猪苗代町の主婦ら



ガーナ料理に舌鼓を打つ猪苗代町民



▲ジモトナイスとオムライス

ガーナ創作料理講習会は昨年十二月、町体験交流館で開かれた。ラング・オチエ駐日ガーナ大使らが訪れ、町民と共にガーナの伝統料理を味わった。

在日ガーナ大使館から大使ら六人が招かれた。町内から猪苗代高生や主婦ら約二十人が参加し、ガーナ料理への知識を深めた。

大使館所属料理人のビューティー・アヘド・アブラハムさんは、細かく刻んだトマトをコメで炊いた「ジモトナイス」や、アフリカ原産のオクラをたっぷり使った「オムライス」などを作った。試食した宇南山忠明町教育長は「子どもたちも喜んでくれると思う」と話し、学校給食のメニューに取り入れるための検討を進める考えを示した。オチエ大使は「できれば料理講習会を毎年開きたい」と意欲を見せた。

試食後、アブラハムさんが作ったトマトソースによる創作料理講習も開かれ、町民がオリジナルのメニューを考え、調理を楽しんだ。